

【 投 薬 】**６７９ 抗悪性腫瘍薬投与前にH₂受容体拮抗剤の投与を行う際のH₂受容体拮抗剤の算定について**

《令和７年９月３０日》

○ 取扱い

抗悪性腫瘍薬※（抗体薬を含む。）投与前にH₂受容体拮抗剤（ファモチジン等）の投与を行う際のH₂受容体拮抗剤の算定については、原則として、その傷病名を必要とせず認められる。

※ エロツズマブ（遺伝子組換え）、イサツキシマブ（遺伝子組換え）注射液、カバジタキセル アセトン付加物、パクリタキセル 等

○ 取扱いを作成した根拠等

上記抗悪性腫瘍薬については、重篤な過敏症状（Infusion reaction）を来すことがあるため、添付文書の用法及び用量に関連する注意に、過敏反応の軽減や過敏症状の発現防止を目的に本剤投与前にH₂受容体拮抗剤（ファモチジン等）の投与を行うことが明記されている。

したがって、上記抗悪性腫瘍薬投与前においては、レセプト上、H₂受容体拮抗剤の対象となる傷病名の記載がない場合であっても、H₂受容体拮抗剤投与の必要性は判断できる。

以上のことから、上記抗悪性腫瘍薬（抗体薬を含む。）投与前にH₂受容体拮抗剤（ファモチジン等）の投与を行う際のH₂受容体拮抗剤の算定については、原則として、その傷病名を必要とせず認められると判断した。